

会 議 録

第3回第2期和光市自殺対策計画策定委員会

開催年月日・召集時刻	令和5年1月18日 14時00分
開催場所	和光市保健センター
開会時刻	14時00分
閉会時刻	14時51分
出席委員	事務局
志村 哲祥	保健福祉部長 大野 久芳
鈴木 宏幸	保健福祉部次長兼健康保険医療課長 櫻井 崇
清水 勝子	健康保険医療課課主幹 細野 千恵
斉藤 富美代	健康保険医療課課長補佐兼保健センター所長 飯田 真子
山形 克己	健康保険医療課保健センター 平原 麻美
(5人)	健康保険医療課保健センター 横山 篤子 東京医科大学(コンサル) 栃久保 奈々
欠席委員	傍聴人
椎名 彩	0名
(1人)	
備考	<p>会議資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・第2期和光市自殺対策計画（素案） ・巻末資料6 職員アンケート調査分析資料（令和4年実施） ・参考資料 ピクトグラムについて
発言者	会議内容（要点記録）
事務局	<p>○会議資料の確認</p> <p>○公開会議についての案内等</p>
大野 保健福祉部長	<p>○開会挨拶</p> <p>熱心な議論、慎重審議を経て、パブリックコメント手続きの前段まで迎えることができた。</p> <p>食や睡眠等の大切さ、命の尊さを認識し、個人の健康管理意識から社会全体の自殺予防の意識を醸成する必要性を認識した。</p> <p>市民への気づきのきっかけとなる計画となるよう協力願う。</p>
志村委員長	○開会・出欠確認
事務局	北地域生活支援センターひなげしの椎名委員が欠席。委員6名のうち5名の参加である。

志村委員長	○議事録署名人の指名 名簿順で、鈴木副委員長と斉藤委員に依頼。 (兩名、了承)
	○議題1 第2期和光市自殺対策計画(素案)について、事務局からの説明を求める。
事務局	○議題1 第2期和光市自殺対策計画(素案)について説明。 第1～3章は、意見を反映させ確認いただいている。本日は、第3章のイラスト及び第4章以降の意見をいただく。第1～3章も意見があれば伺う。 (1)第3章、アンケート調査結果のイラストについて、素案のイラストと参考資料のピクトグラムどちらが適か、LGBTQの観点を踏まえ意見をいただきたい。
斉藤委員	ピクトグラムはわかり易く見えるが、イラストと内容が一致しない。イラストの方が分かりやすい。ピクトグラムの限界がある。
志村委員長	LGBTQに配慮し、素案のイラストをわかり易く修正する。
清水委員	若年層は動画がメイン。テレビの他、動画の文言を入れてはどうか。
鈴木副委員長	テレビ視聴が死を促すわけではない。不安をあおらないコメントへ修正してはどうか。
志村委員長	1日4.5時間までの運動は希死念慮が減少。テレビ視聴することで動かないというのが問題。適度に体を動かすことを促す表現への修正でどうか。 テレビの見過ぎは希死念慮と関係するが、動画は関係しない。
事務局	素案をベースにイメージしやすいイラストと表現へ見直す。 続いて(2)第4章以降の説明。 【第4章】 ・新大綱の関係と本計画の施策や取組について。 ・①自殺の直接原因として健康問題、経済・生活問題、勤務問題が大きい。 ②自殺未遂者の再度の企図リスクが高い。③自傷・自殺リスク者が潜在的にいる。④生活習慣が希死念慮の原因としての要素があること。を記載。 ・「1次～3次予防の視点」と3つのプログラム①予防・発見、②教育、③相談について記載。 ・P.37～事業の展開について。 ア)各取組を3つのプログラム、生活支援と医療の視点で整理。 イ)「新規」「前期からの継続」「見直して継続」か把握できるよう記載。

	<p>ウ)継続取組は、前期評価を踏まえ方向性を記載。</p> <p>【第5章】</p> <p>委員意見反映済。</p> <p>【巻末資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・①条例、②策定委員会設置要領、③委員名簿、④(参考)前期計画での事業の体系(前期計画第4章第1節部分)、⑤新大綱の概要(厚労省資料)、⑥職員アンケート調査分析資料、⑦相談先一覧から構成 ・「連携」コラムは削除 <p>【庁内関係課からの意見】</p> <p>8課所から意見聴取し文言修正はあるものの大きな修正意見なし。</p>
志村委員長	○議題1 第2期和光市自殺対策計画(素案)について、質疑を求める。
山形委員	P.43 ②教育プログラム、レジリエンスと生活習慣は関係しているが、自己肯定感を高める教育との関係はないか。
志村委員長	自己肯定感を高める教育は大事であるが、具体的方法論や実施可能かが課題。本計画策定にあたり、課題について十分な検討ができていない。
鈴木副委員長	ご指摘のとおり。具体的な方法としてはSOSの出し方教育となる。ネガティブではなく、ポジティブアプローチの教育を組込むことができるのではないか。
志村委員長	プログラムを、どのように教育委員会に情報提供し促していくかが課題。記載は可能か。
事務局	P.44 「学校現場における教育」に一文加えることは可能。
志村委員長	P.27 を踏まえ、P.44 に入れることでいかがか。
委員各位	了承。
鈴木副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都は、教育委員会主導で各地域の保健センターと連携しSOSの出し方教育を実施している。市として取組む際は、教育委員会との連携が必要。 ・ポジティブ心理学で強みの教育、自己の強みを知ることが鬱の治療より優先という話もある。P.27 のような気持ちを感じないための自己効力感という表記がいいのではないか。
志村委員長	東京都は条例等で定めているのか。

鈴木副委員長	条例化されているかは不明。都が授業用資料や DVD を作成し、保健センターの保健師が学校で講義を行うもの。
志村委員長	今後、教育委員会に協議体へ参加いただくことが必要。ポジティブ心理学の表現は、「自己効力感」「自己肯定感」「自尊感情」どれが適か。
鈴木副委員長	「自分を大切にする」というマイルドな言い方がいいのではないか。
山形委員	P.20「各課」「複数の課」という表現ではなく、市民向けの表現「各部署」等へ見直していただきたい。
事務局	表現見直しを検討する。
斉藤委員	「各課の取組」だと、所管が不明。全体として見えにくい。別表等で施策と担当課一覧が出てくるのか。 計画の進捗状況確認や評価を実施する責任の所在が曖昧となるので検討いただきたい。
事務局	担当部署がわかる記載となるよう検討する。
鈴木副委員長	P.44「地域における人材育成」の部分、教育・育成した地域の人材に各取組で活躍してもらい、それぞれが連携するということがわかる表現があるといい。 P.36 の図、重複する部分があり有機的な連携がある。各プログラムや取組が連携することを明記すると説得力が増す。人材が具体的にどの取組に関与するなど記載があるといい。
志村委員長	育成した地域人材がどう活躍するか、どのチャンネルにつなげるか等の記載がないので検討する。
山形委員	「保健指導マニュアル・アセスメントシートの開発」が目玉の施策。P.39 に東京医科大学との協定に基づき開発を目指すとあるが、開発時期が曖昧。開発後、計画期間中に一部施行する等を明記すべき。
事務局	修正する。
斉藤委員	第3章 P.17「アフターコロナ」の表現を、政府の有識者会議の表現「感染症発生以降の期間」へ修正願う。 第2章 P.9「自助」の説明、「相談・支援体制の構築」や「地域体制」など公助に近い表現となっているので検討いただきたい。

清水委員	自助が機能するための支援として構築するという表現はいいが。
事務局	自助を機能させるために体制を構築した中で、更なる自助の向上を目指す等の表現に修正する。
山形委員	P.46 3 未遂者の再企図防止で質問する。未遂者に対し「レジリエンス」や「カウンセリング」は効果がないのか。
志村委員長	一般的にはアウトリーチとして、「おせっかいを焼く」ことが重要。
山形委員	何かあったら対処するのではなく、能動的なアクションがあるといいと考える。
志村委員長	医療現場で行われることが多い。未遂者が救命センターを出る前に精神科医が会いに行くというケースがあるが、すべての医療機関で行われているわけではない。 近隣医療機関に運ばれた際、県の精神科医に通達を出してもらおうと実行性のある取組ができるが、なかなか難しい。まずは医師会などとの連携を考えていくことが必要。
斉藤委員	「依頼」「連携」という表現があるが、その先が気になる。自殺企図には色々な理由があり、必要な支援を行うことが付随する。精神的な問題があっても医療にたどり着いていない人、生活困窮、DVの問題により自殺企図することがある。「個別の支援をする」と記載があるといい。個別支援により連携体制の課題や体制づくり、精神科医療へのつなぎ方などが明確化し、連携体制づくりにつながるのではないか。
志村委員長	P.46 3 2)の連携部分、「～市民が退院する際に」の後に、「必要な支援等について検討するため、市に連絡を～」と追記するのはいかがか。
事務局	修正する。
志村委員長	P.11 数値目標部分、R7 の「5.3 人」は H27 年比の 70%だと考えるが、「0」か。
事務局	「0」に修正する
志村委員長	いただいた意見への反映について、後日素案(最終版)を確認いただきたい。文言や体裁など、計画書に記載した趣旨・内容に影響のない軽微な修正等は、事務局に一任いただけるか。

各委員	了承。
志村委員長	○議題2 その他について、事務局からの説明を求める。
事務局	今後のスケジュールについて素案 P.5 に基づき報告。 来週半ば頃、本日の意見を修正反映させた案の最終確認依頼をさせていただきたいがよろしいか。
各委員	了承。
事務局	1月末までに、確認及びパブリックコメント案とすることの是非を伺い、確定する。 R5.2.4(土)～2.24(金)21日間 パブリックコメント実施。 パブリックコメント意見と回答(反映)を3月頭までに実施。 第4回策定委員会を3/8(水) 13:00～1時間程度の予定で開催。 第4回委員会は、パブリックコメント意見と回答及び反映案について審議・最終案を確定。 3.24(金) ヘルスソーシャルキャピタル審議会に最終案を報告し了承を得、確定。
志村委員長	議題2 その他 今後のスケジュールについて質疑を求める。
各委員	なし
志村委員長	○閉会の言葉・閉会

議事録署名

_____印

_____印